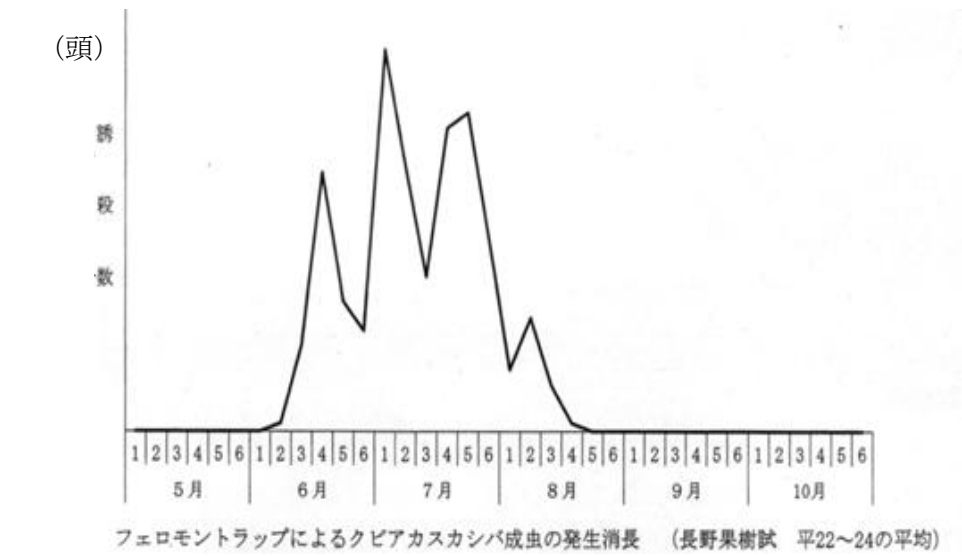


クビアカスカシバのフェロモントラップ誘殺消長 [令和8年(2026年)調査]

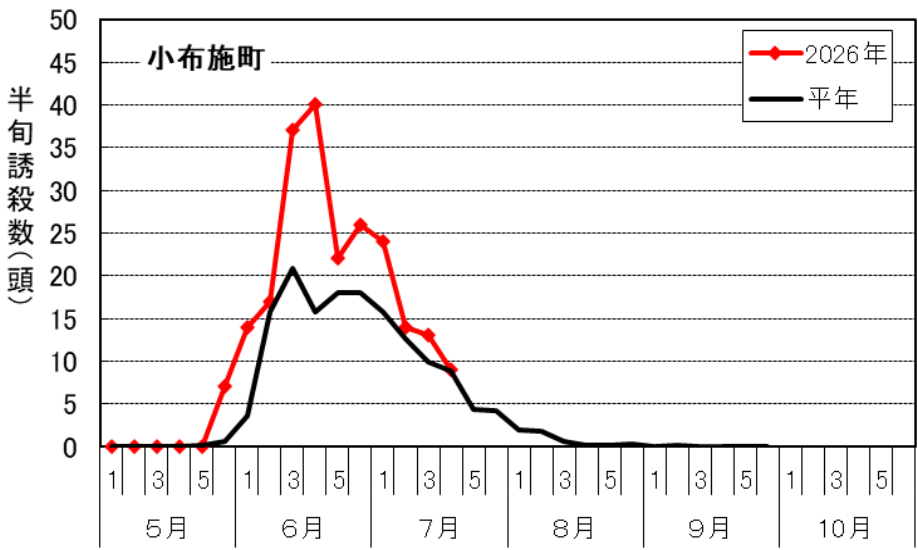
病虫害防除部

2010年から2012年までの消長模式図（果樹試験場内）



- 【発生生態と防除のポイント】
- ・年1回発生する。
 - ・終齢幼虫が10月頃被害樹から土中に移動し、地表から数cmのところで土繭をつくり越冬する。
 - ・成虫は6月中旬頃から羽化し始め、8月中旬頃まで産卵する。
 - ・体長は約3cm、翅は透明で外観はスズメバチに似ている。
 - ・食入部の早期発見や枝幹部への薬剤のかかりを良くするために、休眠期に粗皮削りを行う。
 - ・落花10日後（果粒の小豆大期）までと7月下旬から8月上旬（袋掛け後）の2回、登録のある殺虫剤を枝幹部に十分かかるように散布する。
 - ・幼虫の被害部を見つけたら捕殺する。

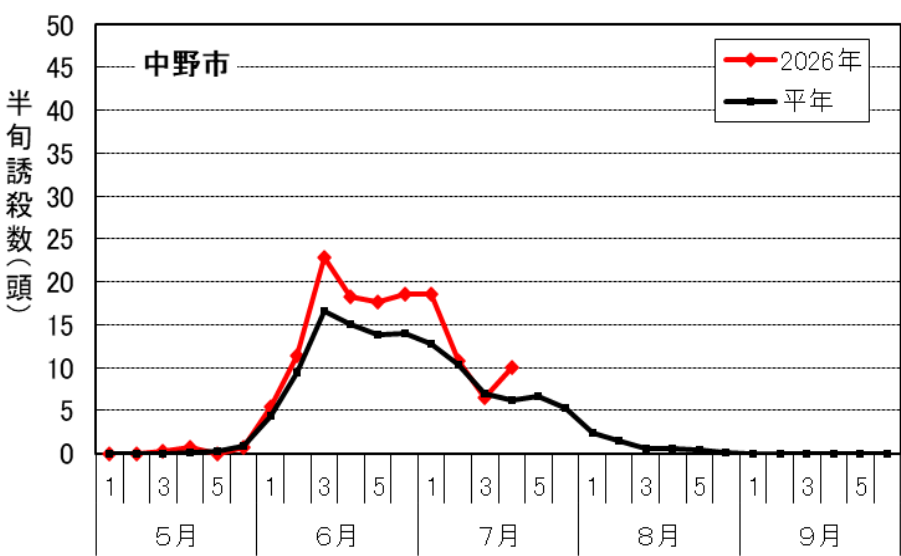
○小布施町（病虫害防除部）



- 【調査地点】（標高約340m）
- ・小布施町（ぶどうほ場）
 - ・平年は2016年～2025年の平均値

- 【コメント】
- ・6月中旬のピーク時の誘殺頭数も、平年の2倍近かった。その後徐々に減少して、7月第4半旬時点ではほぼ平年並の誘殺数となっている。

○中野市（北信農業農村支援センター調査協力）



- 【調査地点】（標高約360m）
- ・中野市（ぶどうほ場）
 - ・平年は2016年～2025年の平均値

- 【コメント】
- ・ここまでの誘殺ピークは、平年と同じ6月第3半旬となっている。その後、ほぼ一定した誘殺が見られていたが、7月中旬に向かって減少傾向となっている。